

発行所 西 藤 原 郡 卷 町 公 民 館
編集人 北 川 郡 司
印刷所 北 洋 印 刷 株 式 会 社

來年から正月は一月

—各地で申し合わせる—

正月の行事はすべて一月に—平たく言えば新正月実施、それ程に「新正月実施」と呼びつけられてきた言葉である。
すでに巻、峰岡、漆山、浦浜地区では一月正月を確認、松野尾、角田地区でも近く会合を開き、その結論が出されようとしている。
巻町の新正月実施の動きは月瀧村、中之口村、味方村、湯東村と他町村をも刺激しこれに同調しようとする動きが見え、巻町の動向が今や郡内のこの問題を大きく左右しようとしている。
ともかく大人が集って決めたこの問題です、子供に笑われないよう来年こそ一月正月で新しい年を迎えたいもの。
去る八月巻に於ける新正月実施申合せに引続き峰岡地区でも十一月五日竹野町公民館を会場に各部落長始め学校長、各種団体長によるこの種の協議会を開催した。

この日町長、公民館長も出席—行政の立場から新正月を実施したいと考えている、勿論こうした新生活運動は天下り式の押付けではない、当然住居の自覚によつて進められてゆくものなのだと前置きして、新生活の切替には多少の摩擦や抵抗も考えら



上 下
マラソン 拍手に迎えられて
郡内各町村から持ち込まれた菊花大会
賑わったオケサ流し

えて欲しい旨の発言があつて協議会に移る。それそれの立場や利害関係が入り乱れて活発な発言が続けられた。「世の中も昔と随分変わった、すべてが機械力になつて農作業も昔と比較すれば早く終るのだが、しかし百姓は雪の降るまで山仕事があるのぞ」。「新旧二度ある冬休みが児童の学習の問題があるし特に二月の冬休みは三月の卒業をひかえて学校でも困る」。「個人的には賛成だが」といつた賛成の方向に会議は傾いていったようです。午後四時この会合はあくまでも代表者会議として部落民にはかり実現に努力することを申し合せる、終つて町政座談会を開く。十一月二十四日第二回目の会合が開かれ部落常会の模様が発表された。その結果十四部落中十二部落が来年の新正月実施を確認した。
漆山地区でも
去る十一月十二日漆山公民館に於て部落長など五十名が集つて協議会を開催、町長、北川主事が出席した。こゝでも万場一致実現に努力することを申合せ十一月二十二日その決議を持寄ることとした。つづいて町政の座談会に入る。水に悩むこの地区での話の中心は水道問題に集中、学

童の寄生虫が郡で一番だとか、笑いの中にもこの問題が真剣に訴えられた。
二十二日第二回目の会合が開かれ全部落新正月実施が部落長から報告された。
浦浜地区ではすでに昨年、三十三年の正月は巻がやらなくとも浦浜は新正月だと固い申し合せをしている。
角田、松野尾地区でも近く協議会を開き結論が出される筈。

多催な今年の文化祭

天候に恵まれて賑う
巻では二日の切手展を皮切りに郡伝競走、菊花展、マラソン大会、映画と座談の会(歌舞伎、文楽、能)生花展、東西野球大会、郷土玩具展、書道展、南画展、町内職対抗籠球大会、洋画展、写真展、銘鳩展など公民館を会場に連日

二日巻中学校十周年記念式典、三日巻中学校文化祭、七日八日巻小学校児童作品展、十三日四ッ郷屋小学校、十五日浜松中学校、十七日十八日入徳館小学校、二十日二十一日竹野町小学校、二十日越前小学校、二十二日十三日漆山小学校がすでに文化祭が終えたが浦浜小中学校は一日二日に又流感で予定を変更した。松野尾小学校、峰岡中学校も一日、二日に開催される予定

◆年々歳々婦人のための会が重なりれ積み重ねていく。それが同じ名目の会であつても年毎の内容の充実と変化は、いつも出席している人にはすぐ解る事だ。◆始めはグチ話に終つたものが次回はその対策がたつた、三回目にはその実践結果が再検討され、回を重ねる毎に過去を土台にして進歩発展していく。◆確に婦人の楽しみの中には「伸びていく楽しみ」が加わつた。その気になさなければその時からすぐに与えられる自由は「伸びていく自由」ではないだろうか。◆人間は本来、公民館的に出来ている。より良くなるうと背のびしている人達は今やどんな偉い人の話でもウソミにはしないまでも成長した。◆まるで別なものにはならないまでも徐々に個々の変形を見せつつある婦人達。◆鍋と釜。そして社会の窓、しやもじと鉛筆と本。◆青空は無限にひらがりつつ誰のためにもあるのだ。





本年は十月迄に舟戸、角田、松野尾、堀山、巻六区に既に六件の火災が起きています。その原因は、こたつ、取灰、車やリヤカーを置かぬ、様々町民の協力を要望している。過去の例からして、冬期間はやはりこたつ、ストーブ、越前小学校、浜松中学、防消

マツチ弄煙突による火災が多く、火、スバ、常備的の事だが、こたつ、及び角田地区の鉄塔三つ、つており、トープの過熱とあと、損害総額、煙突の修理と掃除、百七十万円、一層の注意をうながしている。

消防防署及び消防団の多い火災、巻町としては地財法の適用下、特に消防施設の充実を力を入れ、昭和三十一年度にくらべ、消防防署と三十一年度にくらべ、二百万円増の九百五万円、消防費をあげ施設に火災予面だけを見て、シ、小型消防車(国消防定A2一〇五馬力)福、第六分団長、青木鉄夫、第七分団長、遠藤太作、土田与左エ

農委

農家の皆さん、春以来はんと、御苦労様でした。一息つくと、又来年の作付計画を、期を待たず、今日農地関係について、二三の点を申し上げます。

(1)農地相談日の利用
十月から三月まで、職員は毎週木曜日に駐在所へ出張して居ります。四月から九月までは毎月一日十五日、御利用下さるようお待ちして居ります。

(2)農地の移動について
無断で農地を潰した例に始末書をとられた例もありませんが、これは違法であり、面積と建物、事前、面積と建物の平面図等を添えて法四條又は五條の許可申請して下さい。

(3)農地の転用、演廢
無断で農地を潰した例に始末書をとられた例もありませんが、これは違法であり、面積と建物、事前、面積と建物の平面図等を添えて法四條又は五條の許可申請して下さい。

(4)貸借の解除解除
無断で農地を潰した例に始末書をとられた例もありませんが、これは違法であり、面積と建物、事前、面積と建物の平面図等を添えて法四條又は五條の許可申請して下さい。



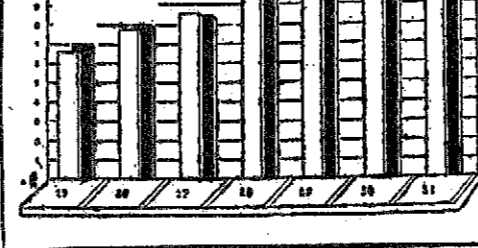
財政

六ヶ町村合併した巻町が、赤字克服を目ざし進んで地財法の適用を受け、懸命の努力を続けて居る事は、皆さん周知のことです。町の財政がその後、どんなに変わったでしょうか。

昨年の四月、即三十一年度の当初予算では、二千四百万円の赤字があり、国からの赤字をなくす為起債一千八百万円が認められ、実質赤字は六百万円に減りました。従って決算では六百万円の赤字が残る筈なのですが、

昨年一ヶ年の努力で赤字が百六十万円に減つてしまつたのです。政と事業のバランスを、九課を六課にしたこと、農委の統合等、いろいろの面で縮小し、消費的経費の節約をはかりました。合併による不便と個々の事業等の助成の少いと言ふ事なのですが、大きくなつた町として、事業を重点的に、しかも公平に推し進めて行つた結果、是非皆さんの理解と協力を願わねばなりません。

昭和三十四年度の町財政は非常に明るくなつてきます。



全国表彰に輝く 社会教育功労者 斎藤 順作氏

前巻町公民館長斎藤順作氏はこの程社会教育の功労者として全国社会教育協会より表彰された。

西蒲原郡公民館連絡協議会の推薦事由を紹介し、斎藤順作氏の功績を讃えたいと思ひます。

推薦事由
斎藤順作氏は戦後混乱した町民の文化の復興に高い活動の推進して平和な文化的な郷土建設に寄与しようとする文化会を創設し、昭和二十一年四月創立と同時に会長に推され、困難な世情の中に文化活動をすすめる八月巻町公民館新設が

少年団、婦人団体の育成に着目され、二十五年第一回指導者講習会を実施するなど、現在の町民の基礎をつくりあげた。巻町が町の中心として他に垂範する意をもつて、二十四年七月公民館の発刊をはじめ、常勤専任主任の任用、独立館舎の獲得等、時機に沿つた施策を実施、社会教育行政の振興に寄与された功績は、実に偉大である。氏は医師として格高潔、健康中正な思想の中に自ら持するこ

巻農校連続優勝 郡駅伝競走

十一月三日郡陸上競技連盟主催、巻町公民館後援の郡駅伝大会(巻町一岩室村一弥彦村一吉田町一和納村一巻町二七キロ)は、昨年の優勝チーム巻農校が堂々二位巻チームを圧して連続優勝を遂げた。

この日午前十時小雨を降らせた。巻町は、原水爆禁止運動は各地各層によつて展開され、運動を進め、全町一丸とした原水爆禁止巻町協議会結成大会を開催する。

十一月三日郡陸上競技連盟主催、巻町公民館後援の郡駅伝大会(巻町一岩室村一弥彦村一吉田町一和納村一巻町二七キロ)は、昨年の優勝チーム巻農校が堂々二位巻チームを圧して連続優勝を遂げた。

庭作り

庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

巻青年学級

秋の収穫を一段落とした農家の青年達が、公民館に顔を向けるようになった。

去る十月十四日学級生全員が出席して、昨年度の学級の反省、併せて今年度の方針並に新しい運営委員を決定した。

十一月一日全員が出席して運営委員会が提出した調査用紙にそれぞれ希望、意見を記入し、集計の結果、生産、生活、郷土、レクリエーションの四グループに分れることとなつた。

お年玉つき年賀はがき発売

お年玉つき郵便はがきが例年の通り十一月十五日から郵便局の窓口及び郵便切手販売所で発売されています。

今年の意匠は密附金一円加算された五円はがきが梅にうぐいす、お年玉だけの四円はがきも豊富に揃っています。

巻局では区内無集配局のものも含めて密附金つき(五円)八九、六〇枚密附金のないもの(四円)三一八〇枚を売り出します。

庭作り

庭石は会社の幹部であり、陰陽和合の石は工員の部類で、恰も事業の、功不成功は人の使い方如何によるのと同じい訳である。

庭木の植え込みもあり、高価な木や切つた物よりやせた赤松の林、藪椿、楓、檜、樺、榎木熊笹などの雑木類を植えて、初夏の新緑、晩秋の紅葉、冬の枯林に捨て難い自然の趣がたのしめる。

ころがせば石の姿の変わらぬ庭作りは、庭築きに人ら寄り来ておのおのが石の配りに思うことを語り

庭作りは、庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭作り

庭作りは、庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭作り

庭作りは、庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

庭石もそんな関係からか、不動石、守護石、伽藍石、礼拝石、など宗教的句いの作つてやつたら、これは面白い」と二つ三つ注文が来て庭作りをさせられた。豊作のせいもあるが、農家の若者たちが機械文明の渦巻きの中に疲れて、庭作りを一つの現れでもあらう。

映画「今どきの嫁」

巻婦人会員合評

出席者

西川、佐野、酒井、久保田、富樫、金子、佐藤、長沼、高島、沢栗、本間

◎映画の取上げて、主題について、相変らず嫁と姑の暗い谷間ね。

▼理想に燃えて背伸びしている嫁の失敗とその後の明るい期待も邪魔する世間と世間態に負ける姑。結婚費用の見栄とムダもはつきり出ていた。これについて親の愛情も本質的なものから考え直すべきだ。

▼嫁の人権はどうなのか。嫁は嫁家にあつては与える立場のみで与えられる面が少ない。

▼娘への愛情は当然だが嫁にもわけてやつたら……。

▼従来の家族制度の中に暮らしてはいても、人間の生活は夫婦が単位であることがこの映画でもはつきり出ている。

◎映画の嫁を観て
▼農家の嫁は労働そのものが厭なのでなく労働のさせ方が厭

なのね。

▼どうして実家は良いのだろうか。

(1) 嫁家は気兼ねの連続だから。

(2) 理解が無いから。嫁の小使銭を実家から貰うのは不合理だ。

この嫁は夫にも姑にも自分を理解してもらおう努力が不足だつた。

◎映画の姑を観て
▼世間に気兼ねして嫁をいじめている。

▼時代についていけない姑。頭を切りかえなくては。

▼自分の経験した辛さを無批判に嫁に押しつけようとしている。

◎映画の夫を観て
▼妻への支えが弱過ぎる。

▼煮え切らぬ。でもこれは従来の封建制にも本人の性質にもよるけど。

▼何と云つても妻にとつては夫が頼りだ。夫は力だ。形の弱い愛情は妻にはどうしても不満だ。

▼妻を失望させない愛の工夫と指導面に欠

けている。

◎映画からの発展
▼嫁が実際には自分の一生の家なんだから「嫁家が一番、良いところ」にならなければ嘘だ。

▼姑は自分が辛かったことは嫁にさせぬ様心がけたいものだ。辛さのくりかえしは不合理だ。そこから誰のしあわせも生れてこない。

▼農家のみじめな暮し方は物心両面の合理化からでなければぬけられないと思う。

▼息子は結婚すればもうお嫁さんのもので

ね。嫁に息子をとられたなんて嫉かぬこと。

▼もつと人生によるこびと笑いをもちたい夫婦でも親子でも兄妹でも隣人でもお互いに理解し合つてみんな幸福になつていきたい。

▼世間なんて私達の集りに過ぎない。世間の基本になるものは個人なのだから、めいめいが良い考え方をしていけば、だんだんに良い世間が出来上がるわけね。

▼ここでもう一つ考えさせられることは、

文化祭記念句抄

十一月三日夜

わりに 面 長な 秋 餅 つる 男 淳
こゝろ みたされば 芒は 影絵 中の 華 木魚
炭火 燃る 限りの 外の 面河の 水 流れて ありぬ 金剛
炉火が 恋しい 僕まだ 思つて いること が つかめ ない 曙山

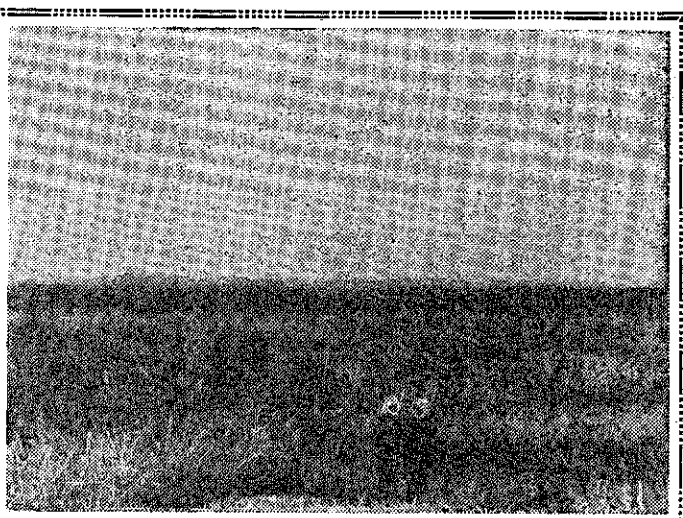
討論会など

Ⅱ 国民科学講座Ⅱ
文部省委嘱「国民科学講座」十一月は三日に町の樹木——ハイキング(旧北陸街道)十三日に栽培植物——映画と座談の会、巻農高の霜鳥先生、二十七日国民科学講座の反省——討論会を開く。

編集後記

新正月実施にはとどの部落が賛成の意を表しようやく一月にそろうて正月を迎えられそうである。

町長さんを中心としたこの種の座談会を積極的に各地域に持つたこと。住民自らの意欲(部落常会にはかつて)によつて申し合せたことなどが今回の結果を生んだようです。しかしこの間十数年この問題を叫びつづけてきた婦人会や青年団その他関係団体の力にもよることの大なるを忘れてはならないと思えます。とにかく皆んなで決めた一月正月皆んながそろうて迎えたいものです。



初冬

はるかに飯豊連峰に初雪がのぞまれる頃になると、さしもの遅い漏の稲刈りもすつかり終る。そして青黒く、特異な景観をみせていた葎も、その頃になると黄色に色づいて枯れる。

以前は、カンジキをつけ、泥のがりのする、あやしげな畦をわたり、がりがりとナタガマで葎を刈る音は、きびしかつた漏の暮しの一コマであった。



び初めると、刈残された葎の風情はさらにわびしく、猟銃の音もあちこちに聞えて、初冬の感興はいよいよ深まる。

(鐘漏周辺にて)